

## 5.継続的な改善

### 環境管理の組織、制度を整備し 環境目的・目標を設定して、継続的な改善活動を実施しています。

Highlight 2009

#### 有効性監査を導入

環境法規や社内ルールの遵守状況の確認にとどまらず、日常の業務について、「手段・方法は適切か」「成果は妥当か」「より効率を上げることができないか」を確認する有効性監査を導入。これにより業務の質・パフォーマンスの改善につなげています。



監査風景

#### 環境保全活動の推進体制

##### 業務特性に応じた環境マネジメント体制を構築

理想科学は、社長を環境保全活動推進の最高責任者とし、全社環境マネジメントシステムを運用、改善しています。

環境保全活動の推進にあたっては、「理想環境憲章」「環境行動指針」のもと、全社の環境パフォーマンスの改善を図る「全社環境マネジメントシステム」と、本部・事業所ごとの特性に沿った課題に取り組む「本部・事業所環境マネジメントシステム」を組み合わせて運用しています。

##### 環境配慮設計責任者を設置

製品における環境配慮活動を管理する「環境配慮設計責任者」を設置しています。環境配慮設計責任者は、製品への環境配慮設計の要求・目標が個々の製品開発に落とし込まれているか

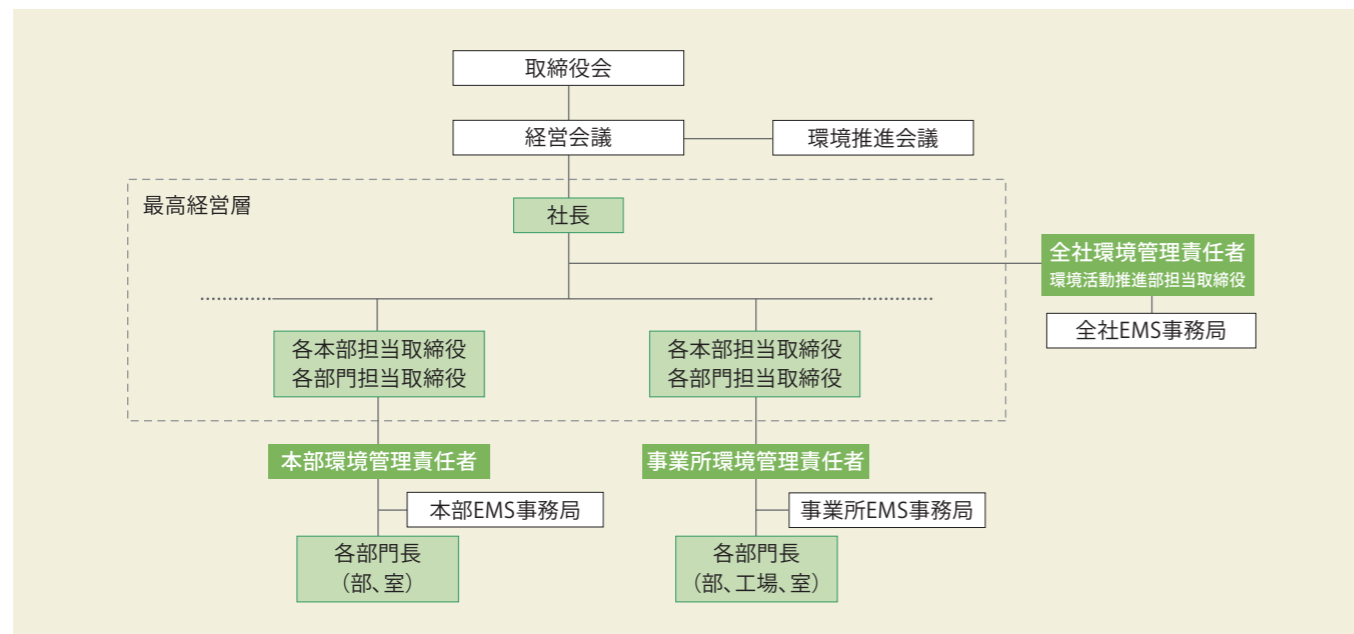
どうかを管理し、製品への環境配慮が確実に実施されるよう進捗管理を行います。

##### 実践的なマネジメントシステムの運用

「本部・事業所環境マネジメントシステム」では本部・事業所ごとの性格・特徴に沿って課題に取り組んでいます。たとえば製造部門や開発本部では多種多様な化学物質を取扱うのできめ細かな化学物質の管理と運用を、営業本部や本社スタッフ部門では、お客様とのコミュニケーションや業務の改善に重点を置いて運用を行っています。

こうした環境推進体制により、全社的課題については全本部・全事業所でベクトルを統一して取り組み、個別の課題はそれぞれの業務に根ざした独自の活動で取り組む、という実践的な環境マネジメントを運用しています。

#### 全社環境マネジメントシステム



#### 環境マネジメントシステムによる継続的改善

##### PDCAサイクルを回すことで継続的な改善を実践

当社は、環境マネジメントシステムを構築し、PDCAサイクルを回すことで継続的に改善しています。

## Plan

### 計画

環境方針を定め、遵守すべき法規制、当社が環境に与える影響を調査・把握し、環境パフォーマンスを改善するために環境目的・目標を設定しています。

#### 当社の取り組み

- 環境方針の制定 (理想環境憲章・環境行動指針) ……P.6
- 法規制の遵守 ……P.14
- 環境に与える影響の調査・把握 ……P.10-15、データ編
- 全社環境目的・目標の設定 ……P.20-21

## Do

### 実行

法規制を遵守し、目的・目標を達成するために役割・責任を明確にし、ルール・手段を定め活動しています。

#### 当社の取り組み

- 役割・責任の明確化 ……P.18
- ルール・手段・方法の整備
- 教育・訓練の実施、緊急事態への対応 ……P.15
- 環境コミュニケーション ……P.22
- 運用管理、文書管理
- 2009年度活動実績 ……P.7

## Act

### 対処

一連のマネジメントシステムが、適正に機能し運用されているかどうか、半年ごとにレビュー・評価しています。必要に応じて変更などの指示を受け、改善しています。

#### 当社の取り組み

- マネジメントレビュー

## Check

### 点検

活動する中で、法規制が確実に遵守されるよう監視・測定を行っています。また活動の仕組み・実施状況に問題ないか監査を行い改善につなげています。

#### 当社の取り組み

- 監視・測定 ……P.14
- 法規制の遵守状況の評価 ……P.14
- 不適合時の是正および予防処置 ……P.14
- 内部監査 ……P.18

## 5.継続的な改善

自己評価凡例：○達成 △未達成だが前年より改善 ×未達成

## 全社環境目的と環境目標

2009年度全社環境目標の実績  
5年先を見据えた2010年度目標の設定

理想科学は、2005年12月から、全社環境目的・環境目標を設定し、全社で環境負荷の低減と環境マネジメントシステムの改善に取り組んでいます。環境目的・環境目標は、達成状況の進捗を管理するとともに、必要に応じて達成レベルの見直しを行っています。

これまでの環境目的が2010年度で終了するので、2010年3月に、5年先の姿を描き、全社環境目的・目標を大きく改訂しました。

2009年度の全社環境目標の実績ならびに2010年度以降の全社環境目的・目標は、右表の通りです。

CO<sub>2</sub>排出量削減およびCO<sub>2</sub>排出量原単位の低減

CO<sub>2</sub>排出量は目標を大きく上回って削減することができました。CO<sub>2</sub>排出量原単位低減では、総製造原価原単位は目標を達成しましたが売上高原単位の未達成となりました。売上高が予定を大きく下回ったことが影響しました。

今後さらにCO<sub>2</sub>排出量削減およびCO<sub>2</sub>排出量原単位の低減を推進していくために、設備の改善・更新、生産プロセスの改善など具体的な実行策の精査、調整を行い、2015年までの環境目的・目標を再設定し活動計画を策定しました。2010年4月より新目標達成に向けて活動を開始しました。

## 廃棄物の特殊最終処分率低減

産業廃棄物については、ほぼ目標に近い成果を上げることができました。一方、一般廃棄物は目標には届きませんでしたが、2008年度比では改善することができました。今後は、運用の中で改善を継続していきます。

## 使用済み製品の回収・再資源化に関わる仕組みの整備・運用

海外における回収・再資源化については、韓国において仕組みの整備が完了し運用を開始しました。中国は予定より遅れましたが、現地での推進体制を決定・整備しました。2011年度からの試運用開始を目標に2010年度は検討・準備を進めます。

日本国内については、2010年3月に使用済み製品の回収・再資源化の仕組み・運用について広域認定を申請しました。2010年度中に認定取得し本格運用を開始する予定です。

また、使用済み製品の回収・再資源化を効率的・効果的に進めるため、新たに「使用済み製品の運搬・保管・再資源化処理プロセスの改善」「使用済みインクボトル再資源化リペレットの使用量拡大」の2件の環境目的・目標を設定し、2010年度から取り組みを開始します。

環境目的	2009年度環境目標	2009年度実績	評価	2010年度環境目的・目標
<b>地球温暖化防止</b> CO <sub>2</sub> 排出量削減、エネルギー消費削減				
2010年度において2004年度比、国内全体でCO <sub>2</sub> 排出量売上高原単位の18%改善する。	2009年度国内全体でCO <sub>2</sub> 排出量売上高原単位の12.19t-CO <sub>2</sub> /億円以下にする(2008年度よりCO <sub>2</sub> 排出量を334t削減する)。(2004年度14.66⇒2009年度12.19)	2009年度、国内全体でCO <sub>2</sub> 排出量売上高原単位の13.76t-CO <sub>2</sub> /億円(CO <sub>2</sub> 排出量は2008年度比527t-CO <sub>2</sub> 削減)で目標未達成。	△	2015年度において国内全体でCO <sub>2</sub> 排出量を2005年度比15%削減する。CO <sub>2</sub> 排出量売上高原単位の2005年度比20%改善する。 2010年度は国内全体でCO <sub>2</sub> 排出量を2005年度比12%削減する(8,807t-CO <sub>2</sub> 以下にする)。CO <sub>2</sub> 排出量売上高原単位の2005年度比9%改善する(12.86 t-CO <sub>2</sub> /億円以下にする)。
2010年度において2000年度比、生産事業所合計でCO <sub>2</sub> 排出量総製造原価原単位を36%改善する。	2009年度、生産事業所合計でCO <sub>2</sub> 排出量総製造原価原単位を12.48t-CO <sub>2</sub> /億円以下にする(2008年度よりCO <sub>2</sub> 排出量を65t削減する。2000年度19.27⇒2009年度12.48)	2009年度、生産事業所合計でCO <sub>2</sub> 排出量総製造原価原単位は12.45t-CO <sub>2</sub> /億円(CO <sub>2</sub> 排出量は2008年度比350t削減)で、目標達成。	○	2015年度において国内生産事業所合計でCO <sub>2</sub> 排出量を2005年度比28%削減する。CO <sub>2</sub> 排出量総製造原価原単位を2005年度比30%改善する。 2010年度は国内生産事業所合計でCO <sub>2</sub> 排出量を2005年度比22%削減する(3,650t-CO <sub>2</sub> 以下にする)。CO <sub>2</sub> 排出量総製造原価原単位を2005年度比18%改善する(11.68t-CO <sub>2</sub> /億円以下にする)。
—	—	—	—	2015年度において理想科学単体国内事業所全体でエネルギー使用量(原油換算)を2005年度比23%削減する。エネルギー使用量売上高原単位の2005年度比30%改善する。 2010年度は理想科学単体国内事業所全体でエネルギー使用量を2005年度比原油換算18%削減する(2,794KL以下にする)。エネルギー使用量売上高原単位の2005年度比15%改善する(4.09原油KL/億円以下にする)。
<b>省資源</b> 廃棄物最終処分率の低減				
廃棄物再資源化率を向上させ2010年3月末に国内全体で特殊最終処分率(埋立処分量+単純焼却量)が廃棄物総排出量(含む有価物、再資源化物)の1%以下を達成する。	2009年度、国内全体で産業廃棄物の特殊最終処分率*を1%以下にする。	2009年度 国内全体で産業廃棄物の特殊最終処分率*は1.3%で未達成。但し、2008年度(3.1%)より1.8ポイント改善した。	△	2009年度で目標を設定して活動することを完了。 2010年度以降は運用による継続改善とする。
	2009年度、国内全体で一般廃棄物の特殊最終処分率*を1%以下にする。	2009年度国内全体で一般廃棄物の特殊最終処分率*は3.3%で未達成。2008年度(4.7%)より1.4ポイント改善した。	△	2009年度で目標を設定して活動することを完了。 2010年度以降は運用による継続改善とする。
<b>省資源</b> 使用済み製品の回収・再資源化				
使用済み製品(機械、インクボトル)の回収率の向上を図り再資源化を推進する。	2009年度は中国および韓国において、使用済み製品の回収と再資源化処理の仕組みを構築する。	中国…予定より遅れたが現地推進体制を整備した。 韓国…構築を完了し運用を開始している。	△	中国内での使用済み機械の回収と再資源化処理の仕組み構築に向けて、2011年度よりテスト運用を開始できるよう所要の調査・情報収集を実施し、運用のために必要な4M(人、物、金、方法)の整備を行う。
	2009年度は国内使用済み機械等の回収・リサイクルの仕組み・運用について広域認定を取得する。	予定よりやや遅れたが2010年3月に申請完了、現在審査中。	△	国内使用済み機械等の回収・リサイクルの仕組み・運用を標準化し2010年度中に広域認定を申請・取得し、広域認定申請に沿った本格運用を開始する。
	—	—	—	使用済み製品の運搬・保管・再資源化処理プロセスにおける非効率性を抽出・顕在化し改善を図る。 2010年度、運搬における積載効率を2009年度比10%以上改善する。2012年度に2009年度比20%以上改善する。 2010年度、処理停滞による保管のムダを2009年度比10%以上改善する。2012年度に2009年度比20%以上改善する。
—	—	—	—	使用済みインクボトル再資源化リペレットの使用量を増加させ、省資源を推進する。 使用済みインクボトル再資源化リペレットの原材料としての使用(リユース)量を2010年度に2009年度比104%以上にする。2012年度に2009年度比220%以上にする。
<b>環境に配慮した製品の販売</b> 環境に配慮した製品の販売拡大				
環境に配慮した製品の販売を拡大する。	環境に配慮したデジタル印刷機の販売を促進する。	目標達成。 達成率104%	○	2010年度以降は運用による継続改善とする。

\*特殊最終処分率：当社では、単純焼却量+再資源化処理で埋立処分される量(残渣・焼却灰)+直接埋立処分量を特殊最終処分量と定義し、特殊最終処分量の廃棄物排出量(有価物、再資源化物を含む)に占める割合(%)を特殊最終処分率としています。単純焼却については資源を有効に活用していないものと考え、投入量全てを埋立処分量とみなしています。